

2013(仏暦2556)年8月号(第88号)

# 万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派

万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



## ■住職法話

したが じゆん  
随い順ずる心

## ■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

はじめに

## ■本願寺の本

大切な人を亡くすということ

## ■住職 子育て日記、編集後記

## Photo

今年の夏は猛暑続きでしたが、気付いてみればもう秋です。朝晩は涼しくなり、虫の音が聞こえてきます。いつの間にか、あちこちでトンボも飛んでいました。

# 住職 法話

## 随い順ずる心

この八月二十七日付の信濃毎日新聞に、「八十六歳シスター生き方を指南」と題し、

渡辺和子・ノートルダム清心学園理事長の「置かれた場所で咲きなさい」という本の紹介記事がありました。内容は、自身のこれまでの人生で感銘を受けた言葉や詩などを紹介しながら、自分らしく前向きに生きるすべを平易に説いているのが特徴で、少し興味があるので買ってみようと思っています。

続けて、記事によると「暗い表情を出さずに生きる。自分に与えられた環境、ポジシヨンを嘆かず、その場で「咲く」ことを説く」とあり、仏

教の教えとも共通しているなと思いました。

それは、公私ともにお育ていただいた今は亡き恩師が遺した言葉の中に取りました。

環境に支配されたと思った時に、いち早く心は窮屈にうめく。そして、環境を支配しようとの無理にでるか、それから逃げようとする弱さになるかのどちらかである。

だが、本来、環境は人を支配したり、人に支配されたりするものではないのだ。

むしろ私は環境を与えられたものとして自己形成の場としてうけとりたいのである。自己を育てる場として、随い順ずる心である。そこには、

支配する、支配されるの無理や窮屈はさらさらない、どころか、私を育ててくれるさまざまな意味を教えてください

大切な場所であることに気づかれてくるのである。この随い順ずる心を教えてくれるのが仏の教えと聞かされた。

普段使われる支配したりされたりという「従う」ではなく、「順う」と「随う」という表現もある。

私は、長野市の万行寺という寺で将来は代を継ぐべく長男として生まれ、先代が亡くなると必然的に住職を務めるといった環境の下で育ちました。また、多くの方々にご心

配ご迷惑をおかけする中で、

長野市で三百年続いた寺を佐久市に移転させていただきまして、置かれている環境において、これまで無理や窮屈を繰り返してきたのではと省みるばかりでした。

しかし、恩師の言葉、環境にこだわるのではなく、自己を育てる場として、随い順ずると気づかされると前向きに考えられるようになりました。

また、置かれている環境だけではなく、近年の自然環境に関する諸問題の解決にも当てはまるのではないのでしょうか。支配したりされたりするものではありません。



～結ぶ絆から、広がるご縁へ～

# ごえん

## 『はじめに』

ある日の、お父さんと娘さんの会話から。

**お父さん** 「<ご縁>って言葉を知っているかい？」

**娘** 「何か、聞いたことあるような、ないような・・・おばあちゃんが、よく言っているような気がする」

**お父さん** 「若い人は、最近使わなくなったようだね。でも、縁結びという言葉は、知っているだろう？」

**娘** 「うん。彼との縁結びを、お願いに行こうと思っているよ」

**お父さん** 「え、もう彼氏ができたのか!？」

**娘** 「お父さん、まだ、これから探すところだから、安心して」

**お父さん** 「おどろかすのは、やめてくれよ。ただ、縁を結ぶというのは、もともと<結縁けちえん>とって、人間同士ではなく仏さまとの<ご縁>のことなんだよ」

**娘** 「え、そうなの。全然知らなかった」

**お父さん** 「そうだよ。辞書で<結縁けちえん>を調べてごらん」

**娘** 「あ、ほんとうだ。最初に<仏道に入る縁を結ぶ>って書いてある。びっくり!」

**お父さん** 「もう一つ質問するよ。じゃ、どうしたら、私たちが、仏さまと縁を結ぶことができると思う？」

**娘** 「えっと・・・それは、私がお寺に行って、お賽銭を入れるからとか？」

**お父さん** 「お金が縁を結ぶということかい？そうじゃないんだ。そもそも、仏さまは、私たちが気付かない時も、ずっと私たちのことを心配してくださっているんだよ。その思いが、もうおまえに届いているから、それを受けとめるのが、仏さまとご縁を結ぶということなんだ」

**娘** 「へえ～。じゃあ、今はまだ、私と一緒に、仏さまの片思いなんだね」

**お父さん** 「そうだね」

**娘** 「仏さまが、どんなふうに心配してくれているのか、知りたくなってきたわ」

仏教が大切にしてきた「ご縁」という言葉を、10章に分けて、考えてみようと思います。

## ～本願寺の本～

### 大切な人を亡くすということ

～自死・葬儀・グリーフケアを考える～

本願寺出版社 刊

浄土真宗本願寺派総合研究所 定価:840円(税込)

2010年、教学伝道研究センター(現:浄土真宗本願寺派総合研究所)が「別離」をテーマとして行った公開講演会の記録集。「傾聴<sup>けいちよう</sup>」「グリーフ(悲嘆)<sup>ひたん</sup>」「寄り添い」とい

った、近年注目されている対人支援の諸概念を平易に解説するとともに、臨床的な立場から「一人ひとりの個別の苦悩」に焦点をあてた内容となっている。(本願寺出版社HPより)

大切な人を  
亡くすということ  
～自死・葬儀・グリーフケアを考える～



## ～住職 子育て日記～

我が家の娘は1歳8ヶ月になり、言うことをきかなくなり、いろいろな物に興味をもって目が離せません。近くの大きな公園に散歩に行っても、道を外れて、さっさとどこかに行こうとしてしまい追いかけるのが大変です。

毎日、ともに仏前で手を合わせて合掌礼拝をするのが習慣になったようで、すすんで自分から仏間に行こうとする姿をみると、様々な面で大切な成長期なのかと感じているところです。言葉も少しずつ発するようになり、そのうち「ナムナム」(南無阿弥陀仏)と念仏称えるようになるのでしょうか。今から楽しみです。



### 編集後記

一部の地域では、この夏は豪雨による災害が多くありました。お見舞い申し上げます。自然現象は何が起こるかわかりません。お互い気をつけましょう。◆予告通り、今回から、「ご縁(ご縁)」について広く知っていたかどうかと連載を始めます。◆浄土真宗本願寺派総合研究所 重点プロジェクト推進室”といった堅いところで編集された冊子ですが、内容はわかりやすくまとめられています。冊子を贈呈すれば良い話ですが、少しずつしっかりと味わって読んでいただきたいと思っています。

